

ひろか

だより

第410号
令和8年9月18日
発行
弘果
弘果 弘前中央青果株式会社
津軽の「うまい」がここにある



津軽りんご市場早生種りんご競売の様子



弘果早生種りんご競売の様子

早生種「つがる」「きおう」 販売環境を反映し相場は慎重に推移

弘果 津軽りんご市場では、8月中旬から「つがる」「きおう」など、早生種の本格的な入荷が始まりました。

気温差があったことで着色も進み、熟度も平年と比較してやや早く、全体的に前進出荷となりました。

今年産の早生種の生育状況について、適度な降雨に恵まれたことで肥大が順調に進み、猛暑日もありましたが、昨年の様なヤケ果や鳥害も少なく、朝晩の

競合する他の果実も潤沢な入荷となったことから、高値で推移した昨年と比較して単価安で取引されました。

「きおう」は、着果量が少なかつたことから入荷量が少なく、国内を中心に取り引き合いが強い状況となりましたが、「つがる」と同様に販売環境は厳しく、高値で推移した昨年と比較して単価安で取引されました。

これから「トキ」や「早生ふじ系」が収穫期を迎えます。「トキ」については、昨年、りんご輸出の大半を占める台湾において、早もぎされた「トキ」にピタービットが発生し、問題となりました。早期収穫は、青森りんごの品質や産地としての信頼を損なうことにつながり、消費や輸出量にも大きな影響を及ぼします。

りんご生産者の皆様におかれましては、食味の良い「トキ」を消費者の皆様へ届けるため、早もぎを避け、産地担当者からの情報などを参考にしながら、適期収穫に努めていただきますようお願いいたします。

今後、国内外の消費者の皆様へ喜ばれる、食味の良い高品質な青森りんごを安定してお届けできるよう、生産者の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

津軽りんご市場(9月15日までの累計)

品種		数量(箱)	平均単価
つがる	令和8年産	131,475	3,843
	前年同日比(%)	118.1	71.2
きおう	令和8年産	24,422	3,978
	前年同日比(%)	104.1	88.7

弘果(9月15日までの累計)

品種		数量(箱)	平均単価
つがる	令和8年産	238,636	4,063
	前年同日比(%)	114.8	71.4
きおう	令和8年産	48,770	4,114
	前年同日比(%)	87.8	92.0

りんご生産者の皆様へ

★選果の際は、箱の中身に上下差がないように、お願いいたします。

★荷下ろしの際は、上段と下段の差がないように、お願いいたします。

★出荷の際は、1箱に必ず1枚入ります。

弘果TS りんご個人票

出荷番号 (1箱ごとに必ず1枚入れてください)

出荷番号を必ず記入してください

このカードは市場に出荷する際に使用するカードです。
※箱を販売する際は、個人票を取り除いてくださるようお願いいたします。

詳細はりんご産地担当者へ

五所川原農林高校



「ハニーゴールド」を手に収穫を喜ぶ生徒達

ハニーゴールド収穫・出荷

弘果オリジナルブランド「つがる」の栽培実習に取り組んでいる五所川原農林高校生物生産科の1年生12人が8月21日、収穫から、選果、箱詰めなど、一連の作業を行いました。

この実習は、青森県オリジナルメロン生産連絡協議会(渋谷充会長)が取り組むメロン栽培後継者育成事業の一環として同校で実施しているもので、当社農産指導課の指導の下、8月22日に、当社第1卸売場で競売が行われました。生徒たちは自分たちが育てたメロンが競売にかけられ販売される過程を見守りました。競売では、DX箱8入りで1箱当たり6千円と、過去最高水準の価格で取引されました。

同校の工藤大河(たいが)さんは「実家がりんご農家ですが、今回の実習を通してメロン栽培に興味を持ちました。大切に育てたメロンが今日の競売で高い値段が付く、とても励みになりました。これからメロンが店頭に出るまで、たくさんの方に食べてもらいたい」と話していました。

出荷された71箱のメロンは、8月22日に、当社第1卸売場で競売が行われました。生徒たちは自分たちが育てたメロンが競売にかけられ販売される過程を見守りました。競売では、DX箱8入りで1箱当たり6千円と、過去最高水準の価格で取引されました。

柏木農業高校



「栗こ南瓜」を手に収穫を喜ぶ生徒達

弘果オリジナルブランド「つがる」の栽培実習に取り組んでいる柏木農業高校生物生産科1年生19名が8月31日、収穫作業を行いました。

生徒たちは、当社農産指導課職員の指導を受けながら、5月25日の定植から約3ヶ月間、高品質な南瓜の生産を目指して、日々の栽培管理に取

り組んできました。収穫を終えた同校の原田悠司(ゆうし)さんは「初めての収穫でしたが、たくさん収穫できたという印象です。先生や弘果の方に聞いたところ、今年は豊作だということだったので、天候にも恵まれ、栽培管理を徹底してきた結果だと思っています。とても達成感があります」と笑顔で話していました。

また、今後予定されている販売体験について「これから実習の集大成となる販売があります。胸を張って『自分たちが作った南瓜です』とアピールし、ぜひ買っていただいて、おいしく食べてもらいたい」と意気込みを語りました。

この後は、収穫した南瓜を風乾し、量販店の店頭で販売体験を行う予定です。生徒たちが栽培から販売までを実際に体験することで、農業への理解をさらに深める機会となります。

りんごのトレサビ申請はお済みですか?

出荷時には、品種カード・収穫カードを必ず荷受係へ提出下さるようお願いします!

場所・時間
弘果及び津軽市場
トレサビセンター
8時~17時

重要
事前に登録の上、書類を一式持参して下さい。

弘果・津軽市場両トレサビセンターの混雑状況を弘果総合研究開発(株)のHPで公開します。
トレサビセンターへ来場する際にご活用下さい。混雑緩和の為、WEB登録もご活用下さい。

お問い合わせ: 弘果総合研究開発(株) ☎0172-29-4184

農業の未来を拓く！新規就農者



山口 真奈さん (33)
【園地所在地】弘前市鬼沢
【作付状況】りんご・50アール、桃・20アール
【就農年】2023年
「きつかけ」りんご農家に生まれ育ちましたが、当時は農業に全く興味がなく、むしろ「農家にはなりたくない」と思っていました。

農業に大きな夢と希望を抱いて就農した人にスポットを当て、紹介します。農業の未来を切り拓く就農者を弘果グループは応援します。

とさえ思っていました。そのため、就職先も農業とは関係のない業種を選びました。そんな私に転機が訪れたのは、家業で製造しているりんご加工品をイベントで販売する機会があった時です。当時は営業職に就いていたこともあり、販売は順調に進みました。その経験を通じて、「原料となるりんごの生産にも携われば、商品への理解がさらに深まり、もっと面白いのではないかな」と思うようになりました。その思いは次第に強くなり、就農を決意して会社を退職し、まずは家業のりんご栽培を手伝うことから始めました。作業に携わる中で、次第に自分の園地で自身の力でりんごを生産したいという思いが強まり、園地を取得し、本格的に就農しました。

【現在】園主となった今も、まだまだ学ぶことが多く、自園地の管理と並行して家業の手伝いを行いながら、栽培技術の向上に励んでいます。また、経営の幅を広げるため、桃の栽培にも取り組んでおり、少量ではありますが、今年初めて収穫を迎えることができました。りんご、桃ともに、まだ小さな園地ではありますが、志は大きく持ち、日々の作業一つ一つを貴重な経験として積み重ねています。これからも栽培技術を磨きながら、高品質で安定した生産を目指し、着実に歩んでいきたいと考えています。

【夢・展望】将来的な規模拡大に向け、まずは農業経営の基礎をしっかりと築いていきたいと考えています。そして、就農のきっかけとなった「自分が作った農作物を自分で売る」という思いも大切にしながら、将来的には生産から販売まで自ら手掛ける6次産業化にも取り組んでいきたいです。

【座右の銘】「一期一会」この言葉には、同じ時間や出会いは二度と訪れないという思いが込められています。だからこそ、出会った方々との縁を大切に、その時、その瞬間を大切にしたいと思っています。農業は、自然や作物と向き合う仕事であると同時に、たくさんの方との出会いやつながりに支えられている仕事だと感じています。出会った方々とのつながりが、日々の学びや励みとなり、そこから得られる知識や経験を大切にしながら、一歩ずつ成長していきたいと考えています。



モデル園にて説明を受ける参加者

弘果総合研究開発は8月27日、りんご・高密度植栽経営モデル園で「りんご・高密度植栽栽培現地研修会」を開催しました。

本研修会は青森県からの委託事業として、本県の自然環境や各地の栽培環境に適応した高密度植栽



Hiroka R&D Inc.
弘果総合研究開発(株)

りんご高密度植栽モデル園現地研修会開催

の普及拡大と定着を図ることを目的として行われたものです。当日は津軽地域周辺の高密度植栽生産者や興味を持っている生産者など、約50名の参加者が、この栽培の特徴や現在の生育状況の説明を受けた後、シャインマスカットを栽培しているハウス内で「稼げる高密度植栽の定着をめざして」をテーマに、メリット、デメリットなどのディスプレイを行い、参加者からは「作業のしやすさ」や「早期多収」などの良い点、「苗木確保の難しさ」や「初期投資の負担」などの心配な点が挙げられました。

モデル園では園地視察や農業体験を随時行っており、総研HPをご覧ください。



第4期農業研修生募集

弘果総合研究開発が運営する「りんご・高密度植栽経営モデル園」では、令和6年から新規就農者の育成事業に取り組みしています。研修生は同社の社員として2年間、りんごの高密度植栽栽培をはじめ、シャインマスカットなど他品目の栽培についても学びます。1人当たり50アールの研修園地が割り当てられ、研修終了後はその園地を有償で提供し、独立就農を目指します。研修では、栽培技術だけでなく、選果や販売、農業簿記など、農業経営に必要な知識や実務についても幅広くサポートします。これまでに7名の研修生を受け入れ、令和8年4月には2名が新規就農者として独立しました。



研修に励む2～3期生5名

現在、同社では第4期生となる「令和9年度採用農業研修生」(定員2名)を募集しています。応募の詳細については、弘果総合研究開発業務部(電話・0172-294184)までお問い合わせください。



りんご集荷場営業時間のお知らせ

弘果	津軽市場
【期間】11月30日まで 【時間】午前10時～午後6時 【休み】休市日の前日	【期間】11月27日まで 【時間】午後1時～午後6時 【休み】休市日の前日
集荷場の案内はこちらから	集荷場の案内はこちらから
小沢集荷場 090-7529-3736	五所川原集荷場 080-6051-5242
目屋集荷場 070-2022-1905	鶴田集荷場 080-5744-5050
浪岡集荷場 080-1833-1461	鰯ヶ沢集荷場 080-5744-5048
大鰐集荷場 080-3149-3657	
十面沢集荷場 080-4411-8759	
平賀集荷場 080-5224-7684	
鬼沢集荷場 090-2988-2855	
岩木集荷場 090-1398-1415	

出荷に向けて目揃え会開催



シャインマスカット目揃え会

栗と南瓜目揃え会

弘果オリジナルブランドつがりあん「栗と南瓜」の出荷時期を目前に控えた8月25日、当社第1卸売場において目揃え会が行われ、当日は約20名が参加し、出荷時の等級を決める際の目安となる果皮色や果形、キズ・スレ・イボの状態、重量、玉揃えなどについて、出荷基準を確認しました。

参加者からは、「今年初めて収穫を迎えるので、出荷基準をきちんと確認しにきました。今日確認した基準をしっかりと守り、これからの収穫、出荷に励んでいきたいです」と意気込みを語っていました。



厳正に行われた審査(アムさんの部)

青森県産メロン生産者連絡協議会(渋谷充会長)、同青年部(吉田匡克部長)共催のつがりあんメロン第14回品評会が7月10日にアムさんの部、7月31日にアーバンデリシャスの部、8月29日にハニーゴールデンの部で開催されました。

アムさんの部には17点、アーバンデリシャスの部には20点、ハニーゴールデンの部には7点が出品され、それぞれ審査員4名が厳正に審査を行い、上位入賞者が決定しました。

【アムさんの部】
金賞 伝法合雅孝 (丸駒生産組合)
銀賞 工藤健誠 (まほろば生産組合)
銅賞 伝法合章史 (だるま生産組合)
金賞 アーバンデリシャスの部 (稲垣メロン出荷組合)
銀賞 野呂海翔 (三ッ館地区)
銅賞 山本信夫 (マル菰生産組合)
【ハニーゴールデンの部】
金賞 五十嵐上子 (だるま生産組合)
銀賞 齊藤隆己 (木造縄文出荷組合)
銅賞 増田和久 (十面沢メロン組合)

10/14 OPEN

秋田県北集荷場
080-5849-9648
秋田県鹿角市
十和田錦木山谷 1-3
【期間】10月14日(水)～11月23日(月)
【時間】正午～午後5時